



※今月のみ受注の書目です。注文が重複した場合は、多い方の冊数で進めさせていただきます。

法律書ご担当者さま

民事訴訟理論の系譜 I (仮)

民事手続法研究所・三上威彦 (慶應義塾大学名誉教授、武蔵野大学大学院
ビジネス法務専攻教授)・芳賀雅顕 (慶應義塾大学大学院法務研究科教授)[編]

本体予価 4,800 円 A5 判上製 / 304 頁 ISBN 978-4-7664-2602-1 C3332

👉ココに注目!

- ドイツ民事訴訟法、倒産法のエッセンスを学べる研究入門書 (全Ⅱ巻)。
- I 巻では、基本的なドイツ民事訴訟理論とその問題について紹介。
- II 巻では、最近の理論・手続き問題を紹介。

日本法の母法であるドイツ民事訴訟法。その最新理論や特徴については、研究者であれば必ず必要となる知識である。本書はドイツの高名な学者陣の講演をもとに、2001～2002年におこなわれた民事訴訟法 (ZPO) の大改正、証拠法制度、執行法制度などを取り上げながら、基本的な理論やその特徴を解説。民事訴訟法理論のエッセンスを紹介する。

👉詳細目次は裏面に掲載! ぜひご確認ください!

対象 (民事訴訟法を専攻する) 大学院生、研究者

👉 **ご注文は FAX で! 03 - 3451 - 3124** 👈

番線	ご注文部数	発行所: 慶應義塾大学出版会	本体予価	部数
新刊委託		民事手続法研究所・三上威彦・芳賀雅顕 編	4,800 円	★★
		民事訴訟理論の系譜 I (仮) ISBN978-4-7664-2602-1 C3332		

★1つで「500部」を表します

【主要目次】

序 ドイツ民事訴訟理論—その系譜と日本民事訴訟理論

第I部 ドイツ民事訴訟の理論問題

20世紀末におけるドイツ民事訴訟法学者
—ロルフ・シュテュルナー（フライブルク大学教授）

2002年のドイツ民事訴訟法の改正
—ラインハルト・ボルク（ハンブルク大学教授）

民事訴訟における証明と違法に収集された証拠方法の取扱い
—ディーター・ライポルト（エアランゲン大学教授、フライブルグ大学教授）

民法改正（630 a条から630 h条）がドイツ医師責任訴訟における証拠法に及ぼす影響
—ハンス・プリュッティング（ケルン大学教授）

民事訴訟における証明度 —ヴォルフガング・ハウ（パッサウ大学教授）

強制執行における基本権侵害に関する問題について
—ハンス=フリードヘルム・ガウル（ボン大学教授）

ドイツ民訴法における作為・不作為執行の今日的諸問題
—エベルハルト・シルケン（ボン大学教授）

執行における憲法上の近時の諸問題 —エベルハルト・シルケン

第II部 ドイツ民事訴訟理論とEU法

欧州人権裁判所 —ゲオルク・レス（ザールラント大学附属ヨーロッパ研究所所長、
欧州人権委員会委員、ブレーメン国際大学教授）

ヨーロッパ倒産法の改正について —ヴォルフガング・ハウ

代替的紛争解決に関する国際手続法上の基本問題 —ヴォルフガング・ハウ